

# 令和 8 年度 病害虫防除情報

令和 8 年 9 月 1 日  
発表：福島県病害虫防除所

アザミウマ類のキクへの寄生が多く確認されています。

生長点や葉裏等をよく観察し、薬剤による防除を徹底しましょう。

- 1 対象作物：キク類
- 2 害虫名：アザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ等）
- 3 対象地域：全域
- 4 発生量：多い

## 5 発生状況

県内のキクほ場 9 か所について、8 月 12 日～21 日に調査を行った結果、アザミウマ類が寄生しているほ場の発生割合が平年に比べて高くなりました（平年 22.9%、本年 55.6%）（図 1）。

主な寄生種は、ミカンキイロアザミウマ（写真 1）やクロゲハナアザミウマ（写真 2）でした。複数の調査ほ場において、幼虫の寄生が多く、生長点のケロイド症状（図 2）や葉裏のかすり傷が多く、被害の増加が懸念されます（写真 3、4）。

また、令和 8 年 8 月 27 日に発表された仙台管区気象台の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の平均気温が高くなる確率は 50%であり、アザミウマ類の増殖に適した条件が続く可能性があるため、注意が必要です。

## 6 被害と発生生態

### （1）ミカンキイロアザミウマ

#### ア 被害

食害や産卵による直接的な被害として、花き類での花卉の変色、トマトやイチゴの果実被害などが生じる。

#### イ 生態

雌成虫は、体長約 1.5mm。体色は明黄色～褐色と変異が大きく、腹部に褐色斑を伴う黄色型もある。低温条件下で褐色型が多くなる。

卵は葉や花卉などの組織内に 1 個ずつ産みつけられる。1 雌成虫当たりの産卵数は 150～300 個。幼虫は花卉、新葉などに生息し、これらを吸汁加害する。

本種はキク茎えそウイルス（CSNV）及びトマト黄化えそウイルス（TSWV）の主な媒介虫である。

### （2）クロゲハナアザミウマ

#### ア 被害

キクでは主に葉、生長点部、花に寄生し、葉のかすり症状、葉裏のシルバリング、花卉の変色被害を生じる。キク葉での被害様相はハダニ類の食害痕と酷似している。

#### イ 生態

雌成虫の体長は約 1.3mm で、体色は黄色を呈する。胸部背板に黒褐色の斑模様が特徴的である。

## 7 寄生植物

両種ともに、多くの植物を加害する。ミカンキイロアザミウマは、キクの他、トマト、キュウリ、イチゴでの寄生がみられている。クロゲハナアザミウマは、主にキク科が多く、ウリ科、ナス科などを加害する。

## 8 防除対策

- (1) アザミウマ類の発生源となるほ場内外の除草を徹底する。
- (2) ほ場内への侵入を抑制するため、ほ場の周りに光反射資材を設置する。
- (3) 青色粘着板の設置により発生状況を把握するとともに、ほ場内の発生状況をよく観察し、発生初期に薬剤防除を行う。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防止するため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う（表1）。
- (5) クロゲハナアザミウマは特に葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布を行う場合は、葉裏まで薬液が十分にかかるよう丁寧に行う。
- (6) 摘葉や摘芯等により生じた残さには、アザミウマ類が寄生している場合があるので、放置せずビニール袋に密閉するなどして適切に処分する。

## 9 参考

表1 キクのアザミウマ類に登録のある薬剤の一例（令和8年版農作物病虫害防除指針より抜粋）

| 薬剤名         | 使用方法    | 希釈倍数または<br>使用量 | 本剤の<br>使用回数 | IRAC<br>コード |
|-------------|---------|----------------|-------------|-------------|
| アフーム乳剤      | 散布      | 1,000～2,000 倍  | 5 回以内       | 6           |
| オルトラン水和剤    | 散布      | 1,000～1,500 倍  | 5 回以内       | 1B          |
| オルトラン粒剤     | 株元散布    | 3～6 kg/10 a    | 5 回以内       | 1B          |
| スピノエース顆粒水和剤 | 散布      | 5,000 倍        | 2 回以内       | 5           |
| ダントツ粒剤      | 生育期株元散布 | 2g/株           | 4 回以内       | 4A          |
| ディアナSC      | 散布      | 2,500～5,000 倍  | 2 回以内       | 5           |
| ハチハチ乳剤      | 散布      | 1,000 倍        | 4 回以内       | 21A         |
| マッチ乳剤       | 散布      | 1,000 倍        | 5 回以内       | 15          |
| モスピラン顆粒水溶剤  | 散布      | 2,000 倍        | 5 回以内       | 4A          |

※上記の薬剤は、令和8年8月26日現在の登録内容です。必ず製品のラベルを確認し、最新の情報を確認してから使用してください。

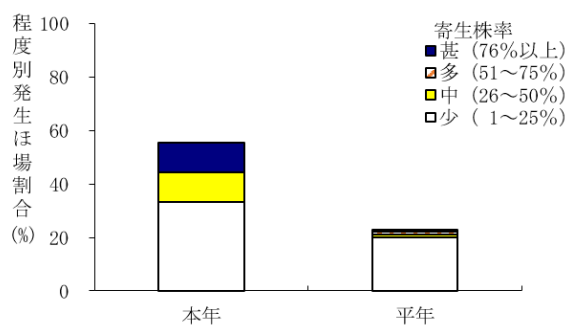


図1 アザミウマ類の発生状況

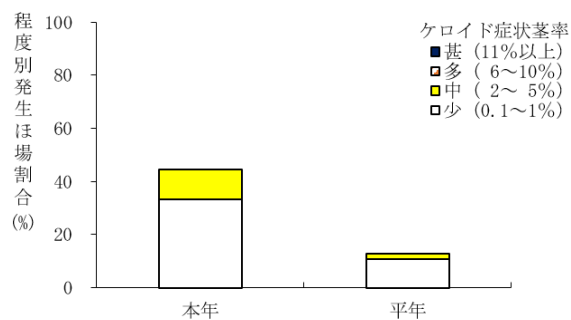


図2 アザミウマ類の被害状況



写真1 ミカンキイロアザミウマ成虫  
(写真：農業総合センター作物保護科原図)



写真2 クロゲハナアザミウマ成虫



写真3 アザミウマ類によるケロイド症状



写真4 クロゲハナアザミウマによる  
かすり傷症状

- 情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709

FAX 024-958-1727